

漢語の散歩道

(793)

下駄

寛 文 生

ばならず、靴よりも下駄の方がはるかに便利であって、「日本人の下駄に対する執着は、外国人には到底想像も出来ないほど強烈なもので」とあるとし、「私なども、高等学校から大学までの六ケ年、靴というものを履いたことがない。洋服に下駄履きという姿で大正

歩履蓬蒿に到る
北隣りの人が病気がちの私を訪ねて、下駄履きで雑草の生い茂るあばら家に来て下さった。

また南宋の詩人范成大（一一二六～九三）の「春日田園雜興」にも、
歩履春を尋ねて 好懐有り

雨余 蹄道 水は杯の如し

「蹄道」とは、馬の蹄の跡。

そこに盃一杯ほどの水がたまっていくというのである。

今から二十余年余り前、中国

から来られた学友を、大学からほど近い北野天満宮に案内したところ、その日がたまたま二十五日、すなわち天神菅原道真公を祭る日だった

境内を歩いていた。それを見た中国の

学者は「唐代の履物が二十世紀の日本に残っているとは思わなかった」と感嘆することしきりであった。

〈立命館大学名誉教授〉

〈画・趙宣華〉

六年から十二年まで通した」と言っている。

「下駄」はもちろん中国から日本に伝わったもので、たとえば杜甫（七七二～七七〇）の「北園」と題する詩にも、履、すなわち木製の履物（木靴）として詠まれている。

時に来たりて 老疾を訪い

中国の新戦略「二帯一路」については、話

ループが総力で企画・出版したのがこの書物

である。2人の編者は

3年前から活動している

「二帯一路日本研究センター」の主要メンバーである。

言われているように

「二帯一路」に関する

論点が多いが、48人の

執筆者によってカバー

されたテーマには、グ

ローバル・パワーシフト、中国製造2025、AIIIB、氷上シ

ルクロード、バックス

・シニカなど相当

多岐にわたる。

進藤榮一氏が書いた

序章の要約を取り上げ

ると「二帯一路は21世紀情報革命によるグロ

ーバル化を促すかみ一帯

一路建設に協力参加す

べき」となる。

日中友好協会会員に

もぜひ読みたい書物

である。 (大)

日本評論社、2400円十税。

『一帯一路からユーラシア新世紀の道』

進藤榮一・周瑋生・一帯一路日本研究センター編



中国の新戦略「二帯一路」については、話ループが総力で企画・出版したのがこの書物である。2人の編者は3年前から活動している「二帯一路日本研究センター」の主要メンバーである。